



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

©じほう2018

HARMACY NEWSBREAK

株式会社 じほう

この通信は会員が直接利用される以外、コピー等による第三者への提供は固くお断りいたします

大手調剤薬局チェーンのM&A、今期「急ブレーキ」 18年度改定見据え慎重に、前年度182店のアインまだ5店

規模拡大に突き進んできた大手調剤薬局チェーンのM&A（合併・買収）に急ブレーキがかかっている。じほうが上場大手5社を対象に過去5年間のM&A成約店舗数をまとめたところ、2017年度は第3四半期末までの実績で例年を大きく下回って推移。大型なM&Aが目立った前年度と比べると激減し、前年度に182店舗を取得したアインホールディングス（HD）は今期はまだ5店舗にとどまる。18年度診療報酬・薬価改定の行方を見守る買い手・売り手の双方が売買に慎重になっていることなどが成約店舗数の伸び悩みにつながっており、18年度以降の動向にも不透明感が漂う。 【関連表2面】

上場大手5社の過去5年間の実績を見ると、M&A成約店舗数は13年度に5社合計で174店舗、14年度に172店舗、15年度に181店舗と170～180店舗台で推移。大型案件の成約が相次いだ16年度は一気に440店舗まで増大している。だが、17年度は最終コーナーである第3四半期末までの実績でわずか36店舗。前年度の1割にも満たない店舗数で、M&Aの仲介会社が「少なすぎる」（MACアドバイザー）というほどの低調ぶりだ。

大手5社とも今のところ、16年度の実績には届いていない。ただ、大手の中で相対的にM&Aの少ない日本調剤は第3四半期末で11店舗と、前年度の21店舗には届かないものの1桁だった13～15年度の実績を上回っている。またメディカルシステムネットワークは第3四半期末で5店舗だったが、第4四半期に青森県のアポテック（14店舗）を傘下に収め、現在は19店舗まで増加。前期の実績で、今期（18年3月期）の目標でもある20店舗に近づいたため、「ほぼ合格ライン」（メディシス）に到達した。

●総合メディ「採算見込めるものに絞って」

一方、アインHDは第3四半期末で5店舗止まり。過去3年間続けてきた毎年度3桁という成約店舗数を大きく下回っている。M&Aの店舗数が例年より極度に少ない理由などについて、投資家や株主への影響を懸念し「今はコメントするのが難しい」（同社）としている。同HDは昨年12月に開示した第2四半期の決算説明会資料で、今期（18年4月期）の出店計画を下方修正したことを明らかにした。このうち、M&Aの店舗数は期初計画の66店舗から43店舗に下方修正している。

これに対し、閉店数（医薬事業）は今第2四半期に39店舗に達し、計画の25店舗を上回っている。通期で31店舗としていた閉店数の期初計画は60店舗に上方修正して

おり、これまで以上に収益性を重視しているものとみられる。

前年度125店舗を傘下に収めたクオールは第3四半期末で9店舗、92店舗だった総合メディカルも6店舗にそれぞれ大幅に実績を下げる。クオールは「改定を見据えて、（案件を一段と）精査するようになった。このため見送った案件が多くなり、成約した店舗数が例年より少なかった」と説明。総合メディカルも「改定（の動向）を予想して、慎重に選んでいる。バー（基準）を上げながら、採算を見込めるものに絞っている。積極的という方針は変わらない」としている。

M&A仲介会社は、「買い手の意欲はある」（M&Aキャピタルパートナーズ）と、決して大手調剤チェーンの買収意欲が減退したわけではなことを指摘。相手をより厳選するようになってきているとの見方で一致する。今期は大型門前薬局チェーンの評価の引き下げが既定路線になっていた18年度改定の動向を見定めたいとの思いから「半年近く前から様子見ムードがかなり出てきた」（MACアドバイザー）、「（買い手・売り手の）両方とも様子を見合っていた感じ」（M&Aキャピタルパートナーズ）といった雰囲気が強まっていた。

●クオール「大型なものは少なく」

薬剤師不足や経営者難などで大手各社に持ち込まれるM&A案件数自体は変わっていないようだ。「案件数は多いが、全体的に小規模なものが多く、収益上取り組める（大きな）規模のものは少ない」（総合メディカル）、「小型の案件数は例年通りだが、大型なものは少なかった」（クオール）とされ、今年度は優良な大型案件が少ないことも成約店舗数の少なさに影響しているようだ。

大手に厳しい“改定リスク”が続く中、仲介会社は「金額を相当乗せてまで買うのは控えたいというのが今の大手の考え方」と解説する。17年度に極端にM&Aが落ち込んだ分、18年度は「18年度は16年度に近い数字に行くと思う」（MACアドバイザー）との見立てがある一方、「買い手が慎重になってくるので、例年と比べてそこまで極端に増える感じではなく、V字回復の感触はない」（M&Aキャピタルパートナーズ）との観測もあり、M&A市場の動向は不透明だ。

●上場調剤薬局 5 社の M&A 店舗数の推移

会社名	17 年度	16 年度	15 年度	14 年度	13 年度
アイン HD	5 店舗	182 店舗	110 店舗	119 店舗	26 店舗
日本調剤	11 店舗	21 店舗	5 店舗	1 店舗	4 店舗
クオール	9 店舗	125 店舗	34 店舗	16 店舗	66 店舗
総合メディカル	6 店舗	92 店舗	25 店舗	9 店舗	33 店舗
メディシス	5 店舗	20 店舗	7 店舗	27 店舗	45 店舗
合計	36 店舗	440 店舗	181 店舗	172 店舗	174 店舗

※2017 年度は第 3 四半期までの実績

※アイン HD は医薬事業の数字